



No. 84

The University of Tokyo Forests News 科学の森ニュース

December 10, 2018

発行：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

第8回 SAUFC が韓国ソウル国立大学で開催されました

国際交流委員会

2018年10月22日（月）～23日（火）に、アジア大学演習林コンソーシアムの第8回シンポジウムが韓国のソウル国立大学・ソウルキャンパスで開催され、韓国、台湾、マレーシア、タイ、日本から教職員と学生合わせて63名が参加しました。初日は6件の基調講演の後、34件のポスター発表が行われました。二日目は3つの分科会に分かれ、国際共同研究について議論が交わされました。23（火）～25日（木）は、ソウル大学の南部演習林、国立生態院、Jirisan 国立公園、製材会社、Jangseong ヒノキ森林浴の林などを見学し、ソウル大学演習林および韓国の森林や研究についての紹介が行われました。本大会は、日本学術振興会の研究拠点形成事業からの補助を受けました。次回は、2020年に国立台湾大学で開催予定です。



「科学の森ニュース」のバックナンバー（PDF形式）は東京大学演習林のホームページからダウンロードすることができます。
(<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/>)

造園学会中部支部学生デザインワークショップ「サマースタジオ2018」開催

生態水文学研究所

2018年8月27日(月)～30日(木)、造園学会中部支部主催のデザインワークショップ「サマースタジオ2018」を生態水文学研究所と共催で実施し、中部圏の大学生を中心とした13名が参加しました。演習林のフィールドミュージアム化をテーマに、生水研の苗畑跡地の利活用のためのランドスケープデザインを提案するワークショップです。4日間の活動期間ではランドスケープデザインの実務者による指導を受け、最終講評会では魅力的な新しい風景や空間体験が提案されました。生水研としても、苗畑跡地の可能性を探ることができ、将来像を巡った議論のきっかけになりました。



スタディ模型を囲んでのワークショップの様子

技術職員3名が森林管理技術賞を受賞

企画部

2018年9月20日(木)沖縄県名護市で開催された全国大学演習林協議会秋季総会において加盟校の技術職員を対象とした平成30年度森林管理技術賞(全3部門)の授賞式がありました。

本学からは千葉演習林の千嶋武さんが基礎整備および資料収集を通じた森林生態系の研究・教育への長期的貢献により「特別功労賞」、田無演習林の相川美絵子さんが利用者の視点に立った効率的な社会貢献活動活性化技術の開発に対する貢献により「技術貢献賞」、千葉演習林の軽込勉さん房総半島におけるヒメコ

マツの保全と再生復元に関する学術的貢献により「学術貢献賞」をそれぞれ受賞しました。



左から相川氏、軽込氏、福田演習林長、千嶋氏

千葉県立中央博物館の企画展で千葉演習林が紹介されています!!

千葉演習林

千葉県立中央博物館にて企画展「房総丘陵はすごい」が2018年10月27日(土)から開催されています。房総丘陵における地学、生物学の研究成果が紹介されており、千葉演習林内から発見された新種の昆虫類や地衣類、菌類が標本と共に展示されています。一連の調査研究には千葉演習林が共同研究パートナーとして大きく関わっています。詳しい情報は下記ホームページからご覧ください。

<http://www2.chiba-muse.or.jp/www/NATURAL/contents/1521934167480/index.html>



房総丘陵における近年の研究成果が盛りだくさんです!!

学生の体験活動プログラムは、2012年、「よりタフに、よりグローバルに」という教育目標スローガンを推進するために、学部学生を対象に、東大本部主体で学生や教職員からプログラムを公募するという形ではじまりました。活動の種類としてボランティアなどの社会貢献、国際交流などと並んで、「フィールド体験活動」という項目があり、演習林は具体的な場のひとつとして期待される中、まず、2012年に富士癒しの森研究所、樹芸研究所、北海道演習林で最初の体験活動が行われました。その後、2014年には生態水文学研究所、2017年には千葉演習林が加わり、今では生態調和農学機構と共同して実施している田無演習林を加えた6つの演習林で特色あるプログラムを実施しています。今年度は、「演習林の教育研究を支えよう！～日本最初の大学演習林で体験する3つの縁の下～」（千葉）、「都内でも農林作業フィールドワーク体験」（田無）、「森林・水・土砂の長期モニタリング調査体験～世界の水文研究を支える90年を全身で感じてみよう～」（生態水文、写真）、「森が社会に貢献するー持続可能な森づくりへの挑戦ー」（北海道）、「南伊豆という一地域との連携に学ぶ」（樹芸）の5つが行われ、12月末には富士で「癒しの森の森林管理」が行われる予定です。体験ゼミや自由研究ゼミと比べると、参加者の人数は少ないですが、その分、濃密な時間が過ごせます。学生にとっては、大学から旅費などの補助が出るありがたい制度です。演習林でしか得られないユニークな体験が参加した学生にとっての有意義な経験としていつか花開くことを願っています。



量水堰で砂出し前の測量をする参加者

演習林のイベント情報 詳細はホームページをご覧ください、各地方演習林にお問い合わせください。

【12月】

- 1日 教職員向け特別ガイド「千葉演習林で楽しむ紅葉とランチ」◆（千葉）
- 1日 教職員向け「リース作り体験会」◆（田無）
- 1日 休日公開（田無）
- 2日 シデコブシの会「標石を探そうツアー」（生水研）
- 4日 千葉県森林インストラクター会「野外講座 東大演習林
～紅葉の猪ノ川林道を歩く」（千葉）
- 5日 君津自然探勝会「林内見学会」◆（千葉）
- 6日 内浦山県民の森催事「晩秋の森ハイキング」（千葉）
- 7-9日 全学体験ゼミナール「癒しの森と地域社会（冬）」☆（富士）
- 9日 第14回影森祭（秩父）
- 11日 鴨川市立天津小学校「林内見学&木登り体験」◆（千葉）
- 15日 下田市共催事業公開講座「林業遺産・岩樟園クスノキ林見学会」（樹芸）
- 16日 ～ coast to coast ～ 房総横断トレイル2018 ◆（千葉）
- 22-23日 体験活動プログラム「癒しの森の森林管理」☆（富士）

【2019年1月】

- 12日、13-15日 全学体験ゼミナール
「森のエネルギーを使いこなす」☆（田無、富士）
- 未定 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ1」☆（樹芸）
- 未定 千葉県勤労者山岳連盟「ロングハイク」◆（千葉）

【2月】

- 2日 教職員向け特別ガイド「冬の散歩みち」◆（富士）
- 3日 森林博物館一般公開（千葉）
- 5-8日 全学体験ゼミナール「房総の森と生業（なりわい）を学ぶ」☆（千葉）
- 16日 シデコブシの会「研究林内野生生物とジビエ」（生水研）
- 27日～3月1日 全学体験ゼミナール「雪の森林に学ぶ」☆（北海道）
- 未定 全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ2」☆（樹芸）
- 未定 千葉県森林インストラクター会「会員研修会」◆（千葉）
- 未定 千葉県森林インストラクター会「野外講座 清澄から筒森へ
～清澄寺から筒森の樹木見本林へ」（千葉）

凡例…無印：一般向け ☆：学生向け ◆：その他

ヒナコウモリ

ヒナコウモリ科 ヒナコウモリ属

学名: *Vespertilio sinensis*

秩父演習林

日本産食虫性コウモリの中では中型の種で、国内では北海道から九州にかけて分布しています。秩父演習林では、定期的に行っている昆虫ライトトラップ調査時にバット・ディテクターでヒナコウモリの物と思われる音声は確認出来ていました。高空を飛翔するために捕獲が難しい種ですが、ライトトラップ調査時にカスミ網を設置し、昨年やっと1個体を捕獲出来ました。主に食べる昆虫は、チョウ目、ハエ目、コウチュウ目であることが知られています。樹洞や岩の割れ目、家屋などを日中の休息場所として利用しているので、捕獲地近隣の樹洞でも見つかるかもしれません。



名所 名物案内

竹林

樹芸研究所

竹冠の付く漢字を幾つ書けますか？普段気にすることはありませんが、意識してみると存外多いことに気がきます。それは人の暮らしの様々なシーンで竹が使われてきたことを表しています。人の暮らしは移ろい、竹は様々な「便利」な素材にとって代わられました。そして現在、放任竹林と竹との関連が薄れた竹冠の漢字が残っています。

そのような竹林ですが、全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ」にとってなくてはならない教材です。竹林の間伐作業・竹割作業に携わることで竹材の特徴を体感します。割った竹で川床をつくり、その川床の上では真夏に涼を得て森林の中で心地よい豊かな時間を過ごします。その床材は、今度は竹炭焼きの原料になります。炭焼きのプロセスは、ノスタルジーの喚起よりも、現代社会のエネルギーと対比して考える貴重な体験として意味を持ちます。出来上がった竹炭でBBQと竹筒炊飯（具はもちろん筍）、飯を盛る器も口に運ぶ箸も自作の竹製で一考。

学生一人一人の「間伐体験」が、体験ゼミ全体としては歴とした「間伐作業」となって樹芸研究所の竹林管理の大部分を担っています。高い教育効果と、竹林管理業務の節約を両立する模範的な循環が出来ています。



科学の森ニュース (The University of Tokyo Forests News)

第84号 (No. 84)

発行日 平成30年12月10日

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

発行人 福田 健二

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林広報情報委員会

編集人 後藤 晋

TEL 03-5841-5497 FAX 03-5841-5494

E-mail mori2017@uf.a.u-tokyo.ac.jp